

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和5年第24週の発生動向

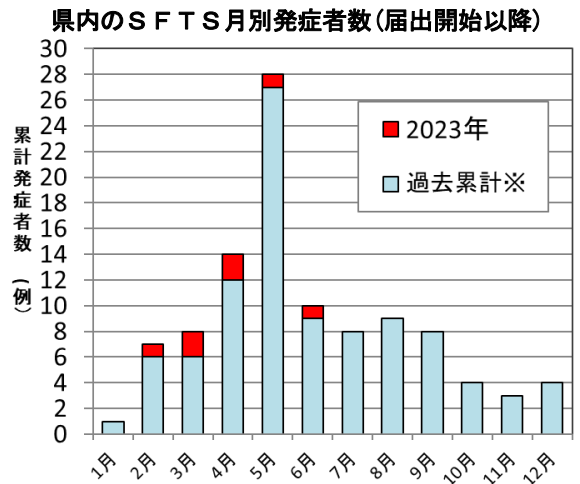
トピックス

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

(全数報告の感染症) の報告が高千穂保健所管内からあった。患者は60歳代の男性で、ダニの刺し口は確認できなかった。県内での報告は、累計104例となった。

県内のSFTS 年齢別報告数(届出開始以降)

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	5	24	40	26	5



※2013年3月から2022年まで

全数報告の感染症 (24週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核3例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例、日本紅斑熱1例。
- 5類感染症：アメーバ赤痢1例、梅毒4例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	20歳代	女	肺結核	咳、体重減少
			80歳代	男	肺結核	なし
		延岡	20歳代	女	無症状病原体保有者	なし
4類	重症熱性血小板減少症候群	高千穂	60歳代	男	—	発熱、筋肉痛、下痢、肝機能障害
	日本紅斑熱	宮崎市	60歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹
5類	アメーバ赤痢	日向	50歳代	女	腸管アメーバ症	大腸粘膜異常所見
	梅毒	宮崎市	20歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			20歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	鼠径部リンパ節腫脹
		延岡	30歳代	女	早期顕症梅毒Ⅱ期	初期硬結、硬性下疳、梅毒性バラ疹
			40歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結、鼠径部リンパ節腫脹

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は1,751人(定点当たり40.3)で、前週比105%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症及び咽頭結膜熱で、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【新型コロナウイルス感染症】

報告数は341人(5.9)で、前週比142%と増加した。日向(10.2)、中央(9.5)、高鍋(7.7)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

【インフルエンザ】

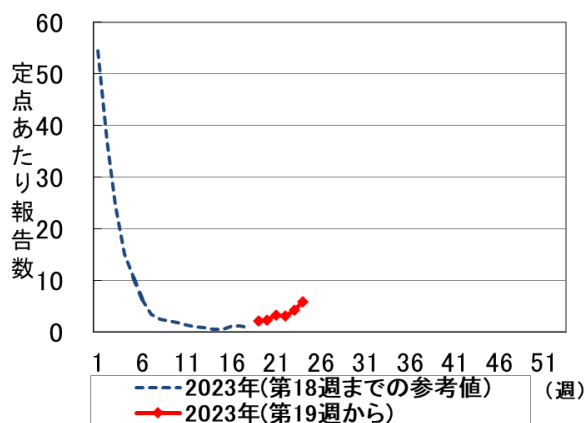
報告数は473人(8.2)で、前週比125%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(0.06)の約128.8倍であった。都城(21.1)、小林(18.0)、日南(14.4)保健所からの報告が多く、年齢群別は5歳から9歳が全体の約4割を占めた。

【ヘルパンギーナ】

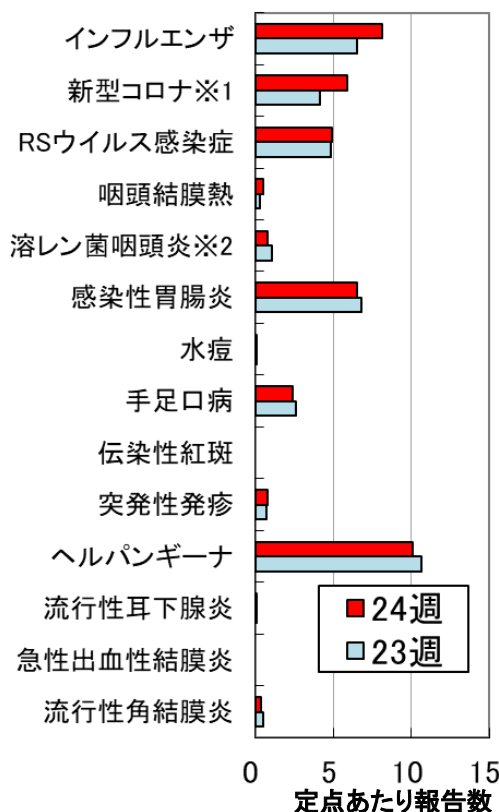
報告数は362人(10.1)で、前週比94%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値*(0.56)の約17.9倍であった。中央(18.0)、都城(13.8)、延岡(12.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は1歳から4歳が全体の約7割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

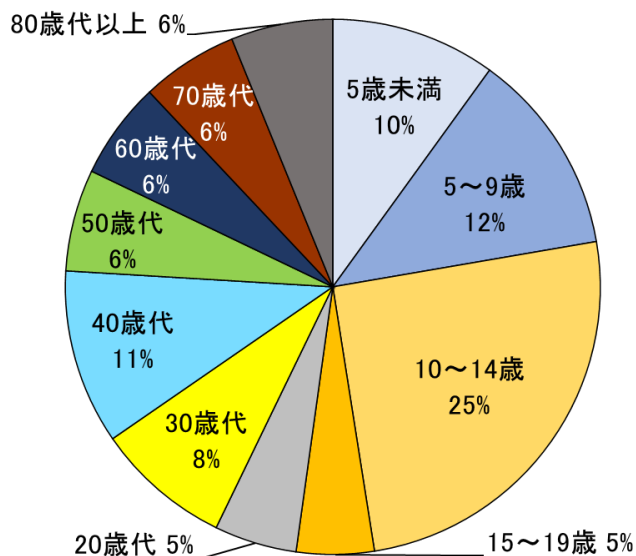
新型コロナウイルス感染症 発生状況



《前週との比較》

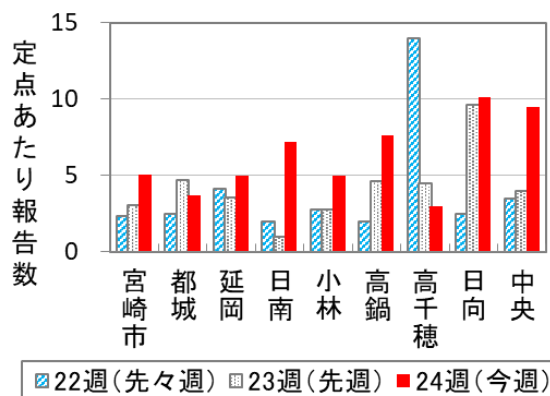


新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第24週)

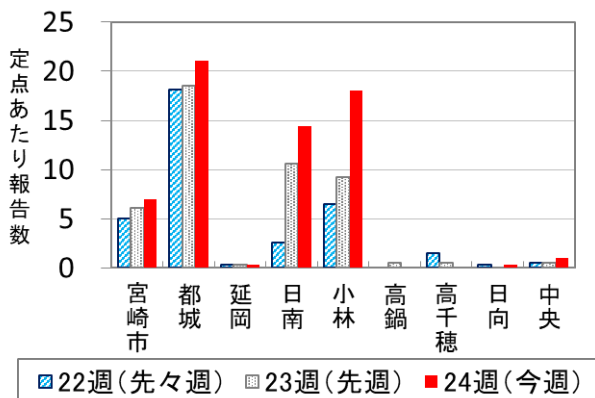


※新型コロナウイルス感染症の第1週~第18週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

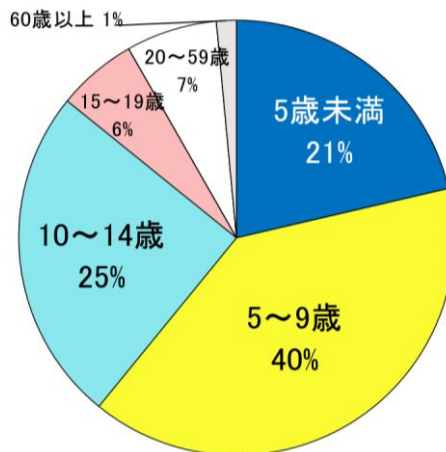
新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3週分)



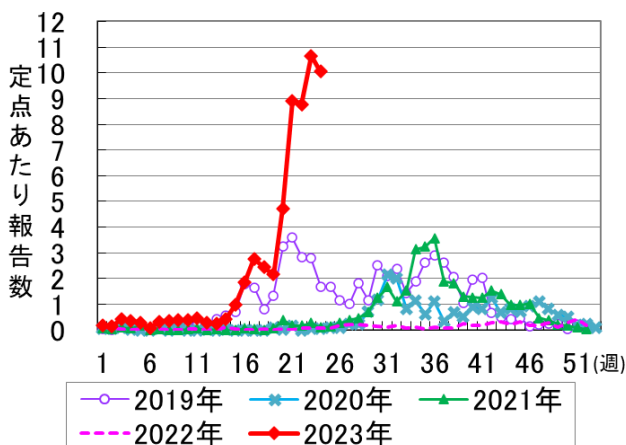
インフルエンザ 保健所別推移 (3週分)



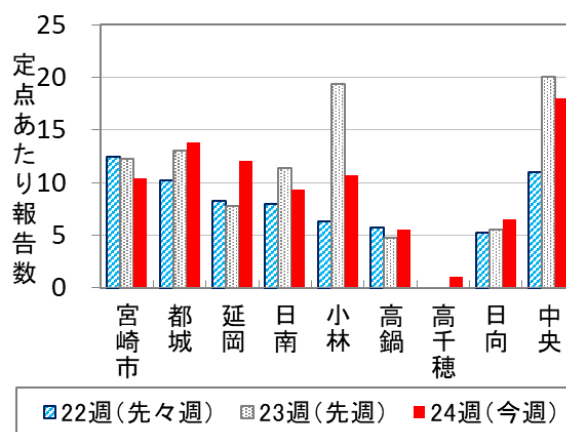
インフルエンザ年齢群別グラフ (第24週)



ヘルパンギーナ 発生状況



ヘルパンギーナ 保健所別推移 (3週分)



★基幹定点からの報告★ なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	ヘルパンギーナ(10.4)
都城	インフルエンザ(21.1)、ヘルパンギーナ(13.8)
延岡	手足口病(6.3)、ヘルパンギーナ(12.0)
日南	インフルエンザ(14.4)、ヘルパンギーナ(9.3)
小林	インフルエンザ(18.0)、ヘルパンギーナ(10.7)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	手足口病(5.8)、ヘルパンギーナ(6.5)
中央	手足口病(5.0)、ヘルパンギーナ(18.0)

※流行警報レベル開始基準値※

- ・手足口病(5)
- ・ヘルパンギーナ(6)

※流行注意報レベル基準値※

- ・インフルエンザ(10)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和5年6月19日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella</i> Lockleaze(O7:b:e,n,x)	70歳代	男	2023.05.03	発熱(38.4℃)、胃腸炎(水様性下痢、嘔気、嘔吐)	便	2023.05.26
EPEC(OUT:H40)	20歳代	男	2023.05.09	発熱(39.0℃)、胃腸炎(水様性下痢、嘔気、嘔吐、腹痛)	便	2023.05.19
EPEC(OUT:HUT)	10歳代	男	2023.05.11	胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2023.05.23
EPEC(OUT:H21)	5~9歳	男	2023.05.26	発熱(38.1℃)、胃腸炎(軟便、腹痛、嘔気、嘔吐)	便	2023.06.06
ETEC(O159:HUT)	70歳代	女	2023.05.29	胃腸炎(水様性下痢、嘔気、嘔吐、腹痛)	便	2023.06.08

○70歳代の女性から、腸管毒素原性大腸菌（ETEC）が分離された。ETECは小腸粘膜上皮細胞に付いて増え、エンテロトキシンと呼ばれる毒素を出して下痢を起こす。エンテロトキシンには易熱性毒素（LT）と耐熱性毒素（ST）の2種類があり、ETECはその一方または両方の産生性あるいは毒素遺伝子が確認された大腸菌である。ETEC感染症による主症状は下痢であり嘔吐を伴うことも多く、重症例（特に小児）の場合コレラと同様に脱水症状に陥ることがある。ETECは、大規模な食中毒あるいは海外旅行者下痢症の原因となることの多い下痢原性大腸菌であるので、注意が必要である。

★ウイルス

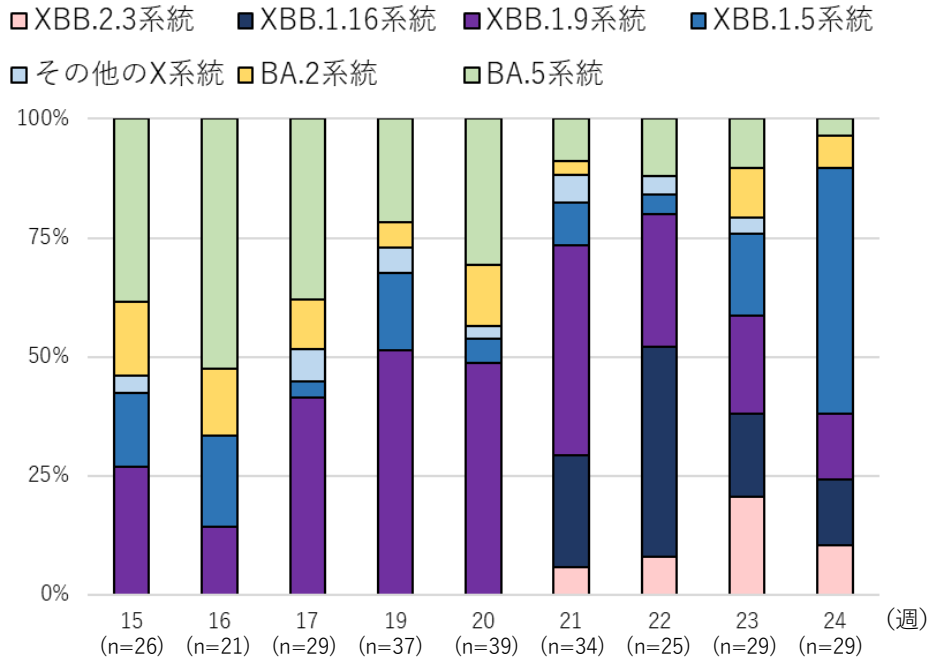
同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Human herpes virus 6	0~4歳	女	2023.03.25	不明の発疹症、38.0℃、上気道炎、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2023.06.19
Rhino virus	0~4歳	男	2023.04.10	急性気管支炎、38.3℃、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2023.06.08
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.04.17	A型インフルエンザ、38.8℃、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2023.06.07
Rhino virus	0~4歳	女	2023.04.17	咽頭炎、39.2℃、上気道炎(咽頭炎)	鼻汁	2023.06.15
Influenza virus AH3	0~4歳	女	2023.04.19	インフルエンザA、38.7℃、上気道炎(咽頭炎)	咽頭ぬぐい液	2023.06.07
Rhino virus	10歳代	男	2023.04.24	咽頭炎、38.7℃、上気道炎(咽頭炎、咽頭痛)、胃腸炎(下痢)	鼻汁	2023.06.15
Influenza virus AH3	5~9歳	女	2023.05.16	A型インフルエンザ、39.7℃、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2023.06.15
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.05.18	インフルエンザA、39.7℃、頭痛、上気道炎(咽頭痛)、咳、倦怠感	鼻咽頭ぬぐい液	2023.06.15
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.05.19	インフルエンザA、39.3℃、頭痛、上気道炎(咽頭炎、咽頭痛)、胃腸炎(下痢、腹痛)、目の充血、倦怠感、鼻水、鼻づまり	鼻汁	2023.06.19
Influenza virus AH3	40歳代	女	2023.05.19	インフルエンザA、39.0℃、頭痛、咽頭痛、鼻水	鼻汁	2023.06.19
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.05.19	インフルエンザA、40.0℃、上気道炎(咽頭痛)、咳、鼻水	鼻汁	2023.06.19
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.05.19	インフルエンザA、40.1℃、咳、鼻水	鼻汁	2023.06.19
Influenza virus AH3	20歳代	女	2023.05.20	インフルエンザA、40.0℃、咳、鼻づまり、倦怠感	鼻咽頭ぬぐい液	2023.06.19
Influenza virus AH3	30歳代	女	2023.05.20	インフルエンザA、38.9℃、咳、鼻水、鼻づまり	鼻咽頭ぬぐい液	2023.06.19
Influenza virus AH3	5~9歳	女	2023.05.22	インフルエンザA、37.7℃、気管支炎、咽頭痛	鼻汁	2023.06.15
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.05.23	インフルエンザA、38.0℃、関節痛、咽頭炎、咽頭痛、鼻水、咳、頭重感	鼻咽頭ぬぐい液	2023.06.15

○発熱等の症状を呈する患者12名からインフルエンザウイルスAH3が分離・検出された。その内6名は、5月に発生した宮崎市内の高校での集団感染事例である。

○乳幼児2名と小児1名からライノウイルスが検出された。ライノウイルスは、小児から高齢者まで幅広い年齢層に上気道炎のみならず下気道炎（気管支炎や肺炎など）を起こし、喘息や慢性肺疾患の増悪を引き起こすこともあるので注意が必要である。

□新型コロナウイルスゲノム解析結果情報（衛生環境研究所微生物部）

新型コロナウイルスゲノム解析週と検出系統



その他のX系統も含むXBB系統は第24週で約90%を占めており、特にXBB.1.5系統が52%を占めています。

「X」で始まる名前は遺伝子組換えで発生した系統に付けられます。

XBBはBJ.1 (BA.2.10.1系統) / BM.1.1.1 (BA.2.75.3系統) の組換え株です。

ゲノム解析は概ね前週の検体を用いて実施しています。なお、解析検体数が多くない場合は割合の変動が大きくなります。

衛生環境研究所においては、県内医療機関の協力のもと、新型コロナウイルスのPCR陽性となった検体を毎週収集し、ゲノム解析を実施しています。

🇯🇵 全国 2023 年第 23 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	225 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	79 例	腸チフス	1 例		
	E型肝炎	13 例	エムポックス	6 例	重症熱性血小板減少症候群	1 例
4類感染症	つつが虫病	5 例	デング熱	2 例	日本紅斑熱	10 例
	マラリア	1 例	レジオネラ症	47 例		
	アメーバ赤痢	5 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	15 例
5類感染症	急性脳炎	8 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	11 例
	後天性免疫不全症候群	12 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	8 例	侵襲性髄膜炎菌感染症	3 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	22 例	水痘(入院例)	10 例	梅毒	200 例
	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	4 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例
	百日咳	17 例				

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比110%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はRSウイルス感染症、手足口病、ヘルパンギーナ及び流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

新型コロナウイルス感染症の報告数は25,163人(5.1)で前週比112%と増加した。沖縄県(18.4)、鹿児島県(7.4)、石川(6.6)からの報告が多く、年齢群別では20歳未満が全体の約4割を占めた。

インフルエンザの報告数は6,688人(1.4)で前週比89%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.10)の約13.8倍であった。宮崎県(6.5)、鹿児島県(5.1)、長崎県(4.7)からの報告が多く、年齢群別では15歳未満が全体の約7割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は9,390人(3.0)で前週比160%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.23)の約13.3倍であった。宮崎県(10.7)、和歌山県(7.1)、愛媛県(6.1)、大分県(6.1)からの報告が多く、年齢群別では1歳から5歳が全体の約8割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2023年 24週(06月12日～06月18日)

疾病名		第23週	第24週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	379	473	112	211	2	72	72			2	2
	定点当り	6.53	8.16	7.00	21.10	0.29	14.40	18.00	0.00	0.00	0.33	1.00
新型コロナウイルス感染症	報告数	240	341	81	37	35	36	20	46	6	61	19
	定点当り	4.14	5.88	5.06	3.70	5.00	7.20	5.00	7.67	3.00	10.17	9.50
RSウイルス感染症	報告数	173	176	65	28	17	5	3	20		22	16
	定点当り	4.81	4.89	6.50	4.67	4.25	1.67	1.00	5.00	0.00	5.50	16.00
咽頭結膜熱	報告数	10	18	5	1	4	1	3	4			
	定点当り	0.28	0.50	0.50	0.17	1.00	0.33	1.00	1.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	38	28	16	2	2	1	1	2		1	3
	定点当り	1.06	0.78	1.60	0.33	0.50	0.33	0.33	0.50	0.00	0.25	3.00
感染性胃腸炎	報告数	246	234	64	40	3	20	43	21	7	32	4
	定点当り	6.83	6.50	6.40	6.67	0.75	6.67	14.33	5.25	7.00	8.00	4.00
水痘	報告数	4	1				1					
	定点当り	0.11	0.03	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	93	86	12	11	25	6	1	3		23	5
	定点当り	2.58	2.39	1.20	1.83	6.25	2.00	0.33	0.75	0.00	5.75	5.00
伝染性紅斑	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	25	29	8	7	4	2	3	2		1	2
	定点当り	0.69	0.81	0.80	1.17	1.00	0.67	1.00	0.50	0.00	0.25	2.00
ヘルパンギーナ	報告数	384	362	104	83	48	28	32	22	1	26	18
	定点当り	10.67	10.06	10.40	13.83	12.00	9.33	10.67	5.50	1.00	6.50	18.00
流行性耳下腺炎	報告数	3	1	1								
	定点当り	0.08	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	3	2	2								
	定点当り	0.50	0.33	0.67	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2023年 第1週～24週)

2類感染症	結核	57例(3)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5例	腸チフス	1例
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	7例(1)	つつが虫病	10例
	レジオネラ症	1例	日本紅斑熱	3例(1)
5類感染症	アメーバ赤痢	2例(1)	ウイルス性肝炎	4例
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例	後天性免疫不全症候群	4例
	侵襲性肺炎球菌感染症	8例	水痘(入院例)	2例
	播種性クリプトコックス症	3例	百日咳	4例
			カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例
			クロイツフェルト・ヤコブ病	2例
			侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例
			梅毒	88例(4)

()内は今週届出分、再掲